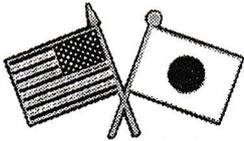


30 MAR 2001



第13号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒105-0004 港区新橋5-25-1-3

編集：JAAGA事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

第18航空団司令官

ノース准将が講演



B. Gen. North

「在沖縄米空軍と朝鮮半島を巡る航空情勢について」



The Japanese sword, presented by President, JAAGA

3月12日(月)、JAAGA主催によって、在沖縄米空軍、第18航空団司令(嘉手納)ノース准将(「だより」第12号で紹介)を招いての講演及び懇親会がグランドヒル市ヶ谷において実施された。

午後4時から実施された講演には、JAAGA会員、米空軍将校及び航空自衛隊の幹部自衛官の多数が参集し、熱心に耳を傾けた。スピーチ終了後約45分間にわたり質疑応答を交わした。

講演に引き続き、懇親会が実施されたが、これには米空軍横田基地から第5空軍司令官ヘスター中將の他主要幹部が、また航空自衛隊からは航空幕僚長、航空支援集団司令官の他航空幕僚監部を初め近傍の部隊等から多数の幹部自衛官が加わり日米空軍関係者の盛大な交歓の場となった。



Reception



Reception

~~~~~ < 講演要旨 > ~~~~~

丁重な御紹介有難うございます。ご来賓の皆様、空自現役の友人の方々そしてJAAGA会員の皆様、こんにちは。本日ここで皆様の前でお話できることを大変嬉しく思います。

まず最初に、アメリカにとって日本ほど重要なパートナーであり同盟関係にある国は無い、ということから話を始めたいと思います。我々はおよそ二世代にわたって過去に例を見ないほど永続性のある友人関係を続けてきました。21世紀は日米両国にとって、お互いに繁栄を助長し、安全を強化する方向で協力し合う世紀に出来るものと思っています。



B. Gen. North and audiences

ブッシュ大統領は、軍に対するコミットメントを再確認して次のように述べています。即ち、軍人及びその家族約6000人の聴衆を前に、「2002年度予算に57億ドルを追加して、軍人給与の増額と住宅及び健康増進の対策を講じる」と言っています。又、大統領就任式においてブッシュ大統領は、自由を守るためにバランスオブパワーを維持し、歴史的な経緯を重んじると共に選択的に、今後とも世界の事象に関わりつづけて行くことを誓いました。この目的を達成するため、米国の外交政策として高邁な理想を掲げて次のように宣言しています。即ち、「我々の外交政策は、明確で首尾一貫し、確信に満ち、我々の求める価値に対して忠実であり、そして我々の友邦に対して忠実でなければならない」と。

本日私は、第18航空団の戦略的な重要性と、沖縄に展開することが日米安全保障条約の目的達成のために如何に重要であるかと言う事について、お話ししたいと思います。そしてまた、朝鮮半島における空域の状況、在韓米空軍及び韓国空軍の即応態勢の状況、そして新世紀において我々が直面するであろう挑戦と、沖縄における米空軍の任務について触れたいと思います。

第18航空団は、カデナ空軍基地の基地業務担当部隊であり、太平洋空軍の一部です。約80機の航空機を擁し、海外の駐留する米空軍の中で最も大きい戦闘混成航空団です。第18航空団は、横田にある第5空軍の隷下部隊であり、従ってハワイのヒッカム空軍基地にある太平洋空軍の隷下部隊ということになります。又、米空軍部隊のほか陸、海軍及び海兵隊の部隊に対する作戦支援も行いますし、米国防省の機関、米國務省並びに米空軍の五つのメジャーコマンドに対する作戦支援も行います。

カデナ基地の人口は、航空団に配属の約6,500人の軍人のほか、五つのメジャーコマンドで勤務する軍人、軍属、シビリアン、日本人の基地従業員及び事業契約者等総勢で21,000人となります。

又航空団は、F-15、KC-15、E-3、HH-60等、約40億ドル相当の航空機を含み総額約60億ドルの国有財産を管理しています。その他の装備器材や資本財は合計約20億ドルとなります。沖縄にカデナ基地の存在は、沖縄の経済に著しい貢献をしているということが出来ます。基地の存在による一年間の経済的なインパクトは、約7億ドルと見積もられています。この金額は現地労働者の給料、基地外の米軍住宅借り上げ費用、地域の会社に支払われる事業契約に基づく金額等を含んでいます。その上約7,400人のカデナ基地内の土地所有者に対する借り上げ料を日本政府が支払っています。

カデナ基地には1,018棟の庁舎と1,555棟の航空機用格納庫があります。その中には15棟の航空機用シェルターと25棟の保全用の施設も含まれています。

第18施設群は米空軍における最大の施設群で、第18施設隊の二つの施設隊より成り、年当たり6千万ド



ルの運用費、7千8百万ドルの公共料金、1億3千8百万ドルのホストネーション施設建設事業費用等の予算を執行して、海外での最大規模の米空軍施設の維持運用に当たっています。又、第18施設群は沖縄における全ての軍人、軍属のための8,140棟の住宅の維持運用に当たっています。更に4,961棟の軍人、軍属以外の人達のための建物、総延長200マイルの道路、同じく総延長350マイルの上水道施設及び200マイルの下水道施設、更に総延長600マイルに及ぶ電気配線等の維持運用に当たっています。これらの施設・設備は12500エーカーの土地の上に展開しており、トータルの設備資産として換算すると43億ドルに相当します。

次に、第18航空団の任務についてお話しします。米空軍のグローバルエンゲージメントと言う目標を達成するため、第18航空団の任務は次のように述べられています。「日米双方の国益を守るため、即応態勢を維持し、統合された展開可能な前方展開空軍力を常時発揮出来る作戦用空軍基地としての機能を維持すること」です。この任務体制のため、カデナ基地は戦闘機より成る混成部隊、空中給油機部隊、航空救難部隊、AWACS及び地上固定レーダーシステム等が即応態勢を維持するとともに有事動員、展開、部隊受け入れ等のために必要なインフラストラクチャーの維持整備を行っています。第18航空団は航空優勢獲得維持のために戦い、勝利する態勢を作り上げております。

KC-135部隊は、西太平洋に常駐する空中給油機部隊としては唯一のものです。これにより被支援航空機の在空時間の延伸を図ることができ、ひいては担当地域全域にわたる空軍の戦闘力の拡大を図る事が出来ます。

AWACS部隊は、E-3センチュリー航空機を装備し航空警戒監視及び管制を行います。必要に応じ空自と協同して任務遂行に当たります。

航空救難部隊はHH-60ヘリコプターを装備し、平時有事を問わず困難に直面している人々の救難任務に当たっています。彼らの担当範囲は環太平洋全域で、極めて広大な海域にわたります。

その他カデナ基地には第18航空団の指揮下でない13の部隊があります。

RC-135を装備した第82偵察飛行隊は、太平洋地域全域の電子偵察任務を遂行します。

第353特殊作戦群は、MC-130を装備し有事装備品および兵員の戦術空輸を行います。

沖縄米海軍司令官の指揮下にあるP-3C部隊は、第7艦隊に対する作戦支援を実施します。3機から10機のP-3Cオライオンがカデナ基地を母基地としてシーレーン監視のため定期周回飛行を行っています。

海軍及び海兵隊の戦闘機もカデナ基地から展開していきます。海軍はまた2機のC-12輸送機をカデナ基地に駐留させています。

沖縄が戦略的な位置を占めるために、太平洋のキーストーンであるとしばしばいわれます。カデナは東京、マニラ、ホンコン、ソウルから900マイル、そしてグアムの西方1200マイルの位置にあります。沖縄における米軍の存在は、地域的な平和と安定という日米双方の国益の追求に寄与するとともに、繁栄をもたらすことに繋がっています。カデナ基地の存在は地域的な安定に貢献するものです。米国の貿易総額の約40%は、アジア諸国との貿易によるものであり、米国経済は、東アジア諸国の経済と相互依存関係にあるとともに、この地域の多くの国は日本における米軍の存在から多くの恩恵を蒙っています。

1960年に締結された日米相互安全保障条約は、両国が実施すべき事項を定めているが、同条約の第5条及び第6条はこの条約のキーコンポーネントであります。

第5条は、日本の領土内における攻撃に関して、日本の施政権が及ぶ領土、領海における攻撃であって、それが日本の平和と安全を脅かす恐れがあり、日本の憲法の定めるところに従い日本がこの脅威に対処する必要があると判断し宣言した場合、日米両国は必要な処置を執ることと定めている。

第6条は、地域の平和と安全を守るため、米軍は日本にある所要の地域と施設を使用することが出来ると定めており、日本の安全保障及び極東における平和と安全の維持のため、米国は日本における米国陸、海、空軍の施設及び所要の地域を使用することが認められています。

新世紀に入り、なお未解決の地域紛争、潜在的な争い、特に韓半島における軍事衝突或いは10月12日に起きた米海軍駆逐艦コールに対するテロ攻撃等多様な脅威が存在します。このようなテロ攻撃によって米国が中近東から引き上げるものではないし、ましてや世界中或いは各地域の国々との安全保障条約を放棄するようなことは断じてあり得ません。

この地域における大量破壊兵器並びにその運搬手段の拡散、及びそれらの兵器を装備しようとする軍隊の存在は大きな脅威であります。極東における軍事力は、ヨーロッパと異なり、冷戦時代に東西両陣営の明確な対峙というものはありませんでした。それは第三勢力としての中国の存在がその背景に有ったからであります。冷戦終了後10年経った今日でもなお、環太平洋地域には不安定性や不透明性が存在します。この地域の多くの国が、夫々の軍事力増強に国家予算のかなりの額をつぎ込んでいます。

ここで朝鮮半島の現状について触れて起きたいと思います。北朝鮮軍は110万人、南朝鮮軍は80万人そして米軍は3.7万人です。朝鮮半島は世界の中で最も何が起こるか解らない不安定な地域、即ち被武装地帯をかかえています。此処では韓国軍と同盟国である米軍が北朝鮮の約110万の軍と対峙しています。いろいろな事態が引き続き生起しているため、北朝鮮に係わる緊張は世界中の注目を集めています。最近では1998年8月、日本の北陸地域を飛び越したテポドンミサイル、3月に起きた船舶の襲撃、1999年の別のミサイル発射脅威等です。

北朝鮮の様な国々の、高度な発射システムを持つ能力はいろいろな攻撃兵器を搭載する事が可能であり、米軍のみならず地域の安定に対して重大な脅威を与えています。

大部分の北朝鮮の兵力は非武装地帯の近くに配置されています。長い年月の間に彼等の兵力を南に移動し、100万人を越す陸軍のおよそ70%を現在非武装地帯の60km以内に配置しています。これは奇襲攻撃を行うことができます。更に、航空機、ホバークラフト及び小型潜水艦をもってCFC（統合軍司令部）の後方にSOF（後方攪乱部隊）を送り込むことができます。従って、世界一の何重ものシステムを巡らしていますし、イラクの20%の空域なのに湾岸戦争と同じ即応性も要求されています。

朝鮮半島における米軍の任務と役割は、任務は休戦維持、防衛、有事の戦勝であり、役割は米軍の前方展開、地域安定への貢献、空軍力の行使、韓国軍展開の支援です。

韓国軍はACCの一部として、6万人を越す兵力を維持し、27の飛行隊を維持し、F/KF-16, F-4, F-5及びA-37航空機を保有しています。

韓国の米空軍は4個の常駐戦闘飛行隊を持っています。オサンに2個飛行隊（F-16、A/OA-10）、クンサンに2個飛行隊（F-16）です。

注：戦略指揮関係、統合軍指揮関係、コマンド関係についてスライドによる説明がありましたが、本紙への記載は控えさせていただきます。

その他、第7空軍には2つの主力運用基地、クーサン、オーサンからなる4つの戦闘飛行隊と8,500人を

超える人からなっています。更に、5つの近傍基地とその他の支援施設があり、約900名が働いています。これらの戦闘基地は補強増員部隊を受け入れることが可能であり、この時は駐留人員数は2倍になります。万一、朝鮮半島が戦闘態勢になれば迅速に韓国に飛来します。

この地域に対する米国のコミットメントに関し、日本を含みこの地域の多くの国は、米軍の存在を快く受け入れてくれています。米軍の存在は、環太平洋地域、特に西太平洋地域における相互の国益の防衛に対する明確なコミットメントを表わすものです。大規模紛争、或いはテロリストによる攻撃、又は双方の国益に対する侵害等は、近代的な速さと大殺傷力をもって行われると考えなければならず、その場合時間の差が勝敗の分かれ目となると思われれます。そして更に、科学技術が進歩し、弾道ミサイル技術が進歩し、大量破壊兵器の拡散が進むにつれ、リアクションタイムは益々短くなっていきます。

精強な部隊の前方展開が地域の安定をもたらすと共に紛争を抑止します。我々は紛争の解決に対する確固たる信念をもって、日夜職務に精励しているし、空軍力は地域紛争発生時、最初に投入される部隊であることを十分に承知しています。これらの紛争は限定的な目的を持ったものかもしれないし、或いは政治的な強制を変革しようとするものであるかもしれない。このような紛争等の事態に対して、我々だけで紛争解決に当たろうとするものではなく、友邦や同盟国と共に対処するものであることは言うまでもないことです。

最後に米空軍と空自とのチームワークについて。航空自衛隊は米空軍と同じように長い歴史を持っています。1954年6月3日、日本の国会は航空自衛隊の設立を認め、同年7月1日をもって発足しました。2004年には50周年を迎えることとなります。航空自衛隊は、50年近くにわたり、領空侵犯をする国籍不明機の警戒監視と排除を行い、日本の航空主権を守ると共に平和と安定に寄与してきました。今日、米空軍は条約その他の関連規定に則り、空自と共に戦う態勢を維持しています。

コリンパウエル国務長官は就任に当たっての宣誓において、「我々の世界は民主主義と自由への新しい道を歩かねばなりません。それは民主主義と自由の下で、世界の全ての人々が等しいチャンスを与えられ、自己の運命を独力で切り拓く事が出来る道であります。」と述べています。

日本政府と米国政府は、太平洋地域における米軍の存在は、この地域の平和と繁栄にとって必要不可欠なものである、と言う事を再確認致しました。

私は米空軍と空自の将来を大いに楽しみにしております。我々には誇るべき遺産と輝かしい未来があります。私は、今や航空と宇宙の重要性について疑問を抱く人々は居ないと思います。我々は、困難な問題に直面して勇気をもって立ち向かう能力、そして地域の平和と安定を達成するためにコミットする能力、を持ち続けます。

我々は又、次世代を担う空軍の若者達が、彼らの任務達成に必要な十分な技術と技量を持てるように施策を実施しておかなければなりません。現在、米空軍はF-15を次世代戦術戦闘機であるF-22ラプターと更新する計画を進めています。しかし我々は、戦いに勝つ能力又は紛争を解決する能力は、人々の勇気と決断と確固たる意志とから生まれるものであることを、今一度思い起こしておく必要があります。そのような個人の資質は、装備や施設のような有形のものから生まれるものではなく、それは人の心の中から育まれてくるものです。

最後に、本日ここにご招待頂き、話をさせて頂く機会を得ましたことに対して厚くお礼申し上げます。日米空軍協会、J A A G Aは在日米空軍と航空自衛隊に対する、極めて価値のある支持団体であります。私は、この偉大な国、日本で皆さんと共に働くことを大変嬉しく思っていますし、皆さんの良き隣人でありたいと思っています。

本日は大変有難うございました。

## 特別寄稿

## ヘスター中將からの手紙

本稿は、在日米軍司令官兼第5空軍司令官ヘスター中將自らの申し出により、先般ハワイ沖で発生した、日本の水産高校の練習船「えひめ丸」と、米海軍原子力潜水艦「グリーンビル号」との不幸な衝突事故に関し、米国民大多数の偽らざる心情と哀悼の気持ちを、この紙面を借りて一人でも多くの日本人に理解してもらいたいという思いと、このことが日米両国民間の感情の離反を招き、ひいては日米同盟関係に亀裂を生じさせるような事態にならないようにとの強い思いから、自ら筆をとり寄稿されたものです。



Dear JAAGA Friends,

Thank you for the invitation and the honor to write a short note in your newsletter. How important it is to keep alive and promote the close cooperation between the Air Forces of our two great nations. Your organization has done that so very well since its founding in 1996.

However, permit me to pause a moment and reflect on the terrible tragedy of the accident between the USS Greeneville and the Ehime Maru. All Americans, especially those of us who are guests in your country and work so closely with you, feel a deep sadness and heartfelt regret for the pain this accident has caused. Life is such a precious gift and while any loss is troublesome, the loss of a child is especially tragic. Our most sincere sympathies and daily prayers are offered to these grieving families.

We appreciate your quiet work and support for our important Japan-US Alliance in the face of this difficulty. The efforts our two nations jointly do for Peace and Stability in Japan and for the entire Pacific region are most assuredly worthy of our renewed commitment. As well, through your organization, there are many opportunities to educate and re-enforce that message with both the Japanese public and the Americans—military and businessmen alike—living in your country. My commanders and I are always available to assist you.

All of 5th Air Force joins the Air Self Defense Force in an unwavering commitment in support of our Alliance and the missions our two nations give to our young men and women. We look forward to the continued growth of professional excellence and cultural sharing that our bi-lateral training builds—the human contact and friendships that emerge are at the very core of our strength.

And finally this summer, we will share your pride as you celebrate the fifth anniversary of the founding of JAAGA in July—it will be a very good day!

Domo Arigato & Check 6—Paul Hester, Lieutenant General, US Air Force

(訳文)

JAAGAの皆様

貴協会のニューズレターに寄稿できたことを大変誇りに思っております。両国の空軍において綿密な協力関係の活動と促進を維持することは大変大切なことでもあります。貴協会は1996年の創設以来の功績は大変素晴らしいものであります。

しかしながら、USSグリーンビルと「えひめ丸」との大変悲劇的な衝突事故に関しまして少し触れさせて頂くことをお許し下さい。総ての米国民、特に我々のように貴国に駐留して深い信頼関係の下にあるものは、この事故が起きてしまったことに深い悲しみ覚えるとともに痛惜の念を禁じ得ません。命とは天からの大切な授かりもので、それを失うということは非常に悲しいことでもあります。それが自分の子供であればなおさらであります。我々の多くは行方不明の家族の方々には心からのお悔みと毎日お祈りを捧げております。

難かしい日米関係の状況の中で、貴協会が重要な日米関係のために地道な活動と支援を行っていることに感謝しております。日本と太平洋全域における平和と安定のために両国が協力して行っている努力は新たに約束したコミットメントをより確実にするものです。また、貴協会の活動を通じ、日本国民と日本に存在する米軍人やビジネスマンは、相互理解を深める機会を得ております。私の部下および私は常に貴協会を支援致します。

総ての第5空軍は航空自衛隊とともに確固たるコミットメントの下、我々の同盟関係を支援するとともに両国の次世代の若者達を導いていきます。我々は引き続き共同訓練によって、プロとしての卓越した技量の更なる向上が図られ、そして文化に対する相互理解を更に深めることが出来るものと期待しております。そして、このことによって培われる人間関係と友情とが、私達の精強さの核心をなすものであります。

最後に、今夏7月に貴協会の創設5周年記念をお祝いできることを誇りに思い楽しみにしております。貴協会の活動を通じ、日本国民と日本に在住する米軍人やビジネスマンは相互理解を深める機会を得ております。

Domo Arigato & Check 6 —Paul Hester, Lieute-nant General, U.S. Air Force

## ☆ 原稿募集 ☆

### ≪ 投稿ページ「投稿広場」 ≫

皆様からのフリーな投稿や、JAAGAの活動に対するご意見やご要望を頂戴し

### 皆様と共に歩むJAAGA

として更なる発展を期していきたいと思っております  
皆様の貴重なご意見や各種投稿をお待ちしています



#### 投稿受付

横幕 功 Tel 03-3286-0335 (新東亜交易)  
Fax 03-3213-2405



正会員基地研修

HEADQUARTERS FIFTH AIR FORCE

# 在日米軍の駐留と役割を再認識

伊藤公雄氏を団長に22名が横田基地を研修



## JAAGA Leaders' Tour

Visit to 5th Air Force Headquarters and Yokota Air Base  
Monday, 27 November 2000

### 研修の概要

常務理事 村田博生

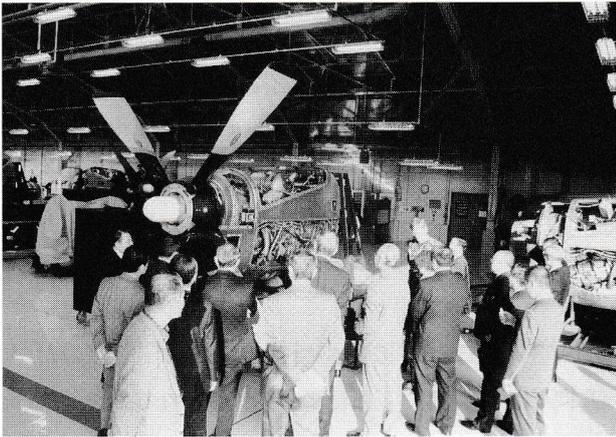
平成12年11月27日(月)JAAGA会員の横田基地研修が行われた。

この研修は「当協会と密接な関係にある米空軍横田基地をより深く理解する」ために企画され希望者を募って実行されたもので、参加者は伊藤公雄氏を団長・二宮隆弘氏を副団長と計22名でした。

研修参加者一行は当日朝9時30分にJR青梅線福生駅に集合したのち基地の第2ゲートに移動し、基地が用意してくれた「ツアーバス」に乗車し10時から昼食をはさんで16時30分迄基地の全容をタップリと研修することができましたのでその様子をご

報告します。

研修の最初は第5空軍司令部、正面玄関で司令官ヘスター中将の出迎えを受け、記念撮影の後ブリーフィング・ルームに入り、先ずヘスター中将から「今回の研修来訪を歓迎する。横田基地の現状を良く見て理解を深めて欲しい。JAAGAの5周年記念、更に航空自衛隊の50周年記念の諸行事に期待している。」との話しがあり、続いてブリーフィングに入り「5AFの歴史、任務、PACAFと5AFの現況」の説明に加えて当面の検討事項として「戦略的計画の中での5AF、即応態勢、思いやり予算、基地施設の改善/改修、テロ対策、来年7月アラスカでの訓練に航空自衛隊の参加を希望したい」



At the Hanger

等の話しが続きました。

次いで374航空団に移動し、航空団司令兼基地司令ザムゾウ大佐から「航空団の歴史、横田基地の概要、航空団の使命、中でも患者輸送を含む戦術空輸と戦略空輸の支援、看護搬送、緊急事態対処、国連との連携、地域との連携、来年秋からの滑走路補修」等の説明を受けましたが、第5空軍司令部と此処でのブリーフィングを併せて第5空軍と横田基地についての理解を深めることが出来ると共に午後の研修の現場で大いに役立ちました。

ここで昼食となりNCOクラブに移動、クラブ内の特別室で今回の研修に関連する基地側スタッフを交えての昼食と懇談の一時を楽しく過ごしました。

午後は移動途中で目に入る基地施設の説明を受けながら各現場の研修で、最初は630AMSSの空輸物資取扱施設を訪れました。

此処では物資の区分け、梱包、パレットに搭載しての荷作り、搭載システム等を見学し、此処が軍輸送の極東の要の役割を果たしていることを理解し、続いて折から飛来していたC-17の機内に入り、操縦席を含む最新鋭機の細部を見学することが出来ました。

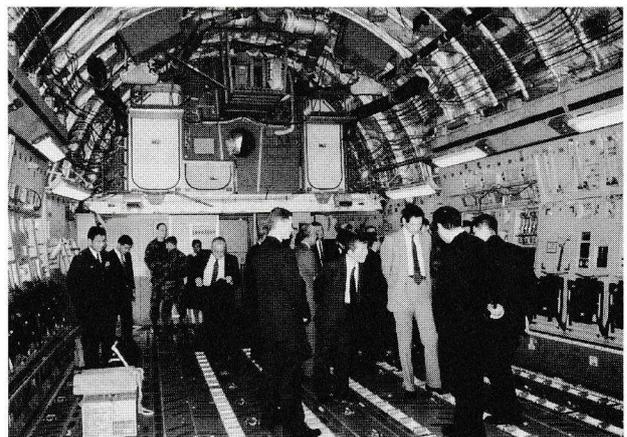
因みに、この日はC-17の他に、C-5、KC-10、KC-135、C-130、C-9と現用輸送機の各機種が駐機していました。

移動の途中で横田基地に現存する旧日本陸軍時代の建物であるベース・オペレーション地区に立ち寄った後374MXSで下車しアビオニクスとエンジン整備の現場を研修しましたが、床面を含み磨き上げられて清潔な作業場に感銘を受けました。

続いて滑走路のオーバーランを横断して基地の東地区に位置する374患者輸送部隊を訪れ、「部隊の概況、任務、担当範囲、スケジュール、取扱患者数(年間8千人)使用器材等の説明を受け、太平洋地区の看護に「いつでも・どこでも」を標語とし、24時間態勢で患者の容態、必要性に応じて2時間以内に行動する役割を理解した後早い夕暮れの中をC-9Aの機内に移動して「空飛ぶ病院機」の実態を見学しました。

4時30分から司令官公邸でのレセプションがヘスター中将のスピーチで始まり和やかな雰囲気で大いに盛り上がりました。

途中ヘスター中将の「日本の国防」に関する率直な意見、伊藤団長の「今回の研修に関する謝意と戦時中の福生(現横田)基地の話」等の貴重なスピーチも有り、更にはJAAGA創設時から大変御世話になったマギーさんが今回退役され帰国されるので、この場を活用してのJAAGAからの記念品の贈呈等を含み2時間余のレセプションは、日米間の友好と親善を大いに高めて盛会裡に終了致しました。



Inside the Cargo, C-17

## 研修参加者所感

今回の研修の団長として参加して頂いた伊藤公雄氏及び副団長として参加して頂いた二宮隆弘氏から、それぞれ参加しての思いを寄せて頂きました。

## 横田基地今昔

伊藤公雄

55年前の8月15日を私は福生飛行場で迎えた。当時此処は2500mの滑走路を持つ関東地方屈指の飛行場で、今の開発集団に類似する機能を持った航空審査部と、立川陸軍教導航空整備師団が所在していた。戦闘機部隊は展開していなかったが、空襲警報が出ると審査部の最新鋭の戦闘機が要撃に上がるので、大きな攻撃は受けていなかった。

教導整備師団というと勇ましいが、そもそもは整備学校であって、戦争末期には戦闘行動がとれるように学校はすべて部隊編成に改められたのである。第1教育部は機種別の整備・取扱い教育、第2教育部は発動機・プロペラ・電機・武装等系統毎の教育を担当していた。その年の4月に北方圏要員としてパイロット60名と整備将校10名が南方戦線から内地に転用となった。今後の作戦の重点は本土の防衛であるという判断からである。私はそのなかの一人として戦隊を離れ、新戦列に加わることになった。新しい職は第1教育部の爆撃班長で、将校の教官30余名とほぼ同数の下士官・兵や工員を指揮しての4式重を中心とする重爆の整備教育だった。つまり、私の整備の原点がこの辺にあるわけで、福生は整備屋としての故郷ともいえるのである。

部下の復員帰郷が一応終わり、終戦処理の業務もあらかた片づいた8月末の或る朝、突如としてP-51十数機が飛来した。気がついたときには先頭数機は早くも場周経路に入っている。米軍の福生初進駐だった。追われるようにトラックに飛び乗り、飛行場を後にして入間の航空士官学校に向かった。覚悟していたとはいえ、改めて敗軍の情けなさに胸が詰まり、押し黙って空を見上げるばかりだった。

終戦の翌年の夏、私は航空本部の勧奨により、しばらくジョンソン基地（今の入間基地）に勤め、P-51のフィールド・メンテナンスのスーパーバイザー

をしていたことがある。当初福生を希望したのだが、日本人はオフリミットとかで叶えられなかった。その時米軍では横田と呼んでいることを知った。正確にはYOKOTA ARMY AIR BASEである。不思議に思ったが、後日陸地測量部の5万分の1地図を調べたところ、飛行場東北の青梅街道沿いに横田村（現在武蔵村山市本町一帯）の地名を見つけ納得した。

横田基地は朝鮮戦争やベトナム戦争を経て、滑走路の延長を初め、ターミナル施設等が全面的に拡張強化され、更には第5空軍司令部の移設や住宅集約化の結果、施設が充実し、様相を一変した。現役時代何回も公用で出入りしたり、入間から帰宅しようとして、しばしば横田との間のUSAFのシャトルバスに便乗したことがある。多少知っているつもりだったが、今は昔の司令部の跡も大講堂の位置もハッキリしない。かつて発動機試運転場を囲み武蔵野の面影を残していた柵（クヌギ）林はどこへやら跡形もない。隊舎の間に点在していた赤松の大木も切り倒されてしまった。

その上、日本の経済のバブル成長期にいわゆる思いやり予算の成果として、老朽施設の増改築が行われ近代化が進んだ。カマボコ兵舎は一掃され、全基地の建物はベージュ色に統一され外観も良くなった。

そんな中で昔の飛行班（ベース・オペレーション）の二階屋だけが残されている。

建国の歴史の浅い米国は国を挙げて歴史を創ることに熱心で、そのため建国に係わる遺跡を大切に、また新たに歴史的記念物を造ろうとするところがあると、ワシントン・モニュメントを前にして聞いたことがある。飛行班の建物が保存されているのもそんな気持ちで働いているのかとも思った。ともあれ、久方ぶりに故郷を訪ねた今浦島には懐かしいことだった。

# 横田基地研修参加記

## 主として在日米軍の駐留と役割について

二宮隆弘

### はじめに

平成12年の10月に、日米エアフォース友好協会(JAAGA)から「横田基地研修のご案内」を頂いた。たまたま安全保障関係の研究組織のお手伝いをしている関係もあり、米軍状況については関心も高いので、参加させて頂くこととした。

研修会には、在日米軍の現状を知りたいという我々のような現実派から、第2次世界大戦間に駐在していた時からの変化振りを見たいという大先輩の方もお見えになり、当時における横田勤務の感傷に浸っておられるノスタルジックな場面もあった。

### 1. 米軍の即応性

我々空自OBはレディネスと言う言葉を聞くと、戦闘服に身を纏い、銃を擬して何時でも発砲準備完了といった態勢を思い出すだろう。即ちアラートハンガーでの5分待機の態勢と言うことだ。これも確かに即応性である。しかし、米軍の考え方は少し違うようだ。パイロットが年間240時間の飛行訓練を実施して十分な練度にあること、戦力発揮の源泉である弾薬、部品の補給態勢が十分に整えられていることで、決して戦場における戦術的な戦闘態勢を言っているのでは無いことである。

### 2. 在日米軍と米軍の世界戦略

わが国では、在日米軍は日本の防衛のためのみに駐留していると、考えられているようだ。だが、米軍が世界の警察官の役割を担っていることは周知の事実であり、このために米軍は少ない兵力を効率的に使用するための整備を着実にやっている。これが二地域紛争に対処する為の兵力整備であり、嘉手納、三沢、岩国に配備された戦闘航空戦力に加えて、航空輸送力の増強と資材の前方配備であろう。横田の格納庫に、インド洋のディエゴガルシャ行きの資材

を集積する場所が指定されていることなど、在日米軍が米国の世界戦略の一翼を担っていることを示しており、軍事的には当然のことと肯定される事象であろう。

### 3. 冷戦終結と米軍の存在のレジティマシー(正当性)

米ソ対立の時代であれば、対ソ脅威に対するカウンターバランスとして、軍事力の存在は、簡単に理解が得られる。敵のいない場合における軍隊の必要性の説明は、はっきり言ってかなり難しい。ここにPKO/PKF等の人道支援、災害救助、救難協力、麻薬対処、サイバー脅威等の新たな敵が強調されて、軍隊の必要性が喧伝されることになる。374患者輸送中隊の存在は、かつての単なる軍の所要に応えるものから、一般民生協力を視野に入れた新しい軍隊のイメージを強調している上に、主たる構成人員が、女性パイロット、女性メディックであることもソフトなイメージ感の醸成に役立っている。

### 終わりに

米軍を訪問する度に思うことは、米国は同盟国の協力を要求しているほどには、その協力にあまり期待していないと言うことだ。米軍事力の卓越と同盟国の戦闘能力の低さは、欧州におけるセルビア制裁の際に実証されている。

有事には、同盟国がいかなる態度をとろうとも、「俺は俺でやる」と言う気概に満ち満ちていることだ。このことは、米国の国益に沿っている場合は、日本の防衛に真摯に協力して呉れるだろうが、日本に魅力が無くなったときは、簡単に見放されるという事であろう。米軍が居なくなった後で、「米軍の存在の重要性に気づいた」のでは、遅すぎると言うことを痛感させられた研修だった。



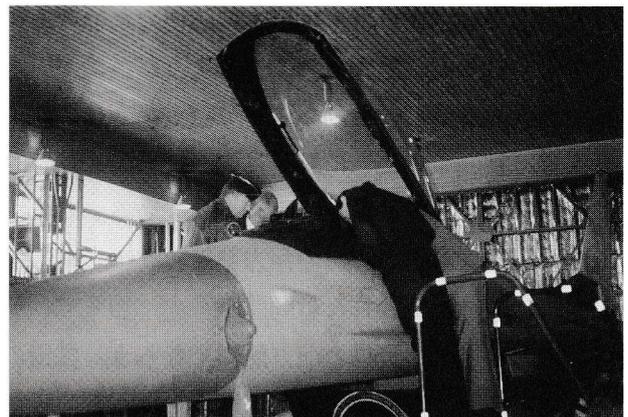
#### 〔研修概要〕

2月27日、28日の両日、JAAGA賛助会員の三沢基地研修を行った。この研修には個人賛助会員3名及び法人賛助会員7社8名の計11名が参加し、山口理事以下5名の常務理事が同行した。研修概要は以下のとおり。

- **出発、一路三沢へ** 27日午前9時50分、羽田空港にて研修団の編成を完了しJAS 223便で一路三沢に向けて出発した。天候は快晴で快適な飛行。10時56分三沢空港到着、第35戦闘航空団副司令官ブランチェット大佐の出迎えを受け、米軍のバスで基地へ移動する。
- **第35戦闘航空団(35FW)のブリーフィング** 11時30分、35FW司令部に到着し、早速ブリーフィングを受けた。ブリーフィングでは、司令官アターバック准将から歓迎の言葉が述べられた後、通訳の長谷川京子さんから日本語で、部隊の任務や活動状況、周辺自治体及び地域住民との友好関係に努めていることなどについて説明を受けた。この席には副司令官をはじめ、作戦運用、兵站、

支援、医療の各群司令(大佐)全員が陪席し、我々研修団に対する米空軍の姿勢を強く感じた。

- **AFAとの昼食会** 12時40分からオフィサーズクラブにおいてAFA(米空軍協会)のメンバーと昼食会。三沢基地AFA会長の医療群司令ガイア大佐から、AFAは戦後間もなく発足し、現在は会員数約15万人で、各種職域及び階級の者で構成されているとの説明があった。この昼食会には、軍曹から大佐まで十名のAFAメンバーが出席した。
- **F-16戦闘機** たまたま飛来していたC-5輸



USAF F-16

送機の近くを通り、その大きさに感心しつつ格納庫に移動し、F-16 戦闘機及び搭載ミサイル等を見学した。この機体が現に中東において任務に従事してきたかと思うと感慨深く、また説明してくれたパイロットが実戦を経験している故か、誇りと自信に満ちているのが印象深かった。

- **HUSH (屋内エンジンテストスタンド)** ここでは実際にアフターバーナーを点火してのエンジンテストの様子が展示された。制御室では騒音が殆ど聞こえず、また燃焼室に入って風圧と空気の振動を体感できたのが印象的だった。三菱重工が良い施設を造ってくれたと一度ならず紹介され、MHI から参加した新田氏は面目躍如。
- **F-110 QUEEN BEE (F-110 エンジン集中整備所)** クィーンビーとは女王蜂のもとへ働き蜂が集まるように、F-110 エンジンを集めて整備するところからきた愛称。三沢 QUEEN BEE では日本及び韓国の F-16 搭載エンジンを集中整備して効率化を図っているとのこと。
- **北空司令官のブリーフィング及び講話** 米空軍の見学をひとまず終わり、北空司令部へ移動。北部航空方面隊司令官津曲空将から、北部航空方面隊の状況説明及び講話を受けた。講話では司令官の部隊及び隊員統率に関する考え方の一端が披瀝された。
- **米軍宿舎** 一日目の部隊研修を終え宿舎へ。今日の宿泊場所は基地内の米軍宿舎 (TOQ) であり、これも貴重な体験。並のシティホテルより数段良いとは聞いていたが立派な部屋に感心した。
- **J A A G A 主催夕食会** 18 時からオフィサーズクラブで J A A G A 主催の夕食会を開催した。この席には、米空軍から 35FW 司令官アターバック准将以下 6 名の主要幹部、また航空自衛隊からは北空司令官津曲空将、同副司令官三沢空将補、第 3 航空団司令上田空将補の出席を得、更に J A A G A 三沢支部長小澤会員も参加して和やかに懇談した。21 時散会。
- **朝食** 翌朝午前 7 時 30 分、NCO クラブ十和田の間で朝食。アターバック准将も同席。本朝 4 時

に F-16 6 機が米本土ネリス空軍基地に飛立ったとのこと。この朝食をもって米空軍側の予定を全て終了し、准将の見送りを受けて空自側の研修に向かった。

- **3 空団ブリーフィング** 第 3 航空団司令部において団司令上田空将補から、基地及び部隊の状況について説明を受けた。喫緊の課題である F-2 部隊建設についての話が印象的だった。



JASDF F-2

- **F-2 支援戦闘機** いま最もホットな段階にある F-2 支援戦闘機を間近に見、手で触れて感激。完全にものにするためにこれからが大変とのこと。昨日見た F-16 の煤けた灰色と F-2 の鮮やかな塗装との対比が印象深かった。
- **E-2 C 早期警戒機** この機体も三沢基地でしか見られないもの。長時間の哨戒任務を行うには機体が思ったより小さいことに驚いた。
- **帰路へ** 三沢基地での研修を終了し、空自バスで三沢空港へ。12 時 2 分、JAS224 便で東京へ向かう。トラフィックの混雑で予定より少し遅れて羽田到着。13 時 45 分に研修の全日程を無事終了し解散した。

今回の三沢基地研修は、短い時間の中にも内容が充実し、初期の目的に十分沿うものであったと思います。これも偏に米空軍並びに航空自衛隊の懇切な支援と協力のおかげであり、紙面を借りて心から感謝とお礼を申し上げます。

以下に参加者からの所感文の幾つかを紹介します。(紙面の都合により、一部を割愛させて頂きました。)

~~~~~〔研修所感〕~~~~~

日本航空電子工業KK 成田 修

今回三沢基地の研修に参加させて頂き誠に有り難う御座いました。こういった機会でないとは体験できない貴重な経験の連続でしたが、感想・所感の一部を以下のとおり記述させていただきます。

1. 米空軍基地について

- (1) 今回F-16を間近に見学する機会があったが、機体だけでなく搭載するWEAPON類を惜しげもなく大量に展示してくれたのはとてもうれしく感じました。特に日本の自衛隊では見る事の出来ないHARMに触る事まで出来たのは感激しました。翌日の空自のF-2がクリーン状態での見学だっただけに、特に印象に残りました。
- (2) エンジン試験棟でのエンジン燃焼試験も研修に参加された他の方々も異口同音に驚かれています。「日本の民間人にここまで見せるのか」というのが率直な感想です。とにかく間近で体験したエンジン燃焼の迫力、衝撃にはただただ我を忘れました。
- (3) 米空軍の幹部の印象は司令官のUTTERBACK准将を初めとして軍人でありかつ米国の国家戦略・意志等を同盟国の国民に雄弁に語る外交官の姿を感じました。
- (4) 短時間でありましたが、前述のとおり米軍の対応はいたれり尽せりであり、その点からもJ A A G Aに対する米空軍の好意・期待が窺い知れる気がします。

あと詰まらない点ですが、私は平成10年2月に実施されました横田基地及び沖縄の嘉手納基地の研修にも参加したのですが、その際会った米軍人は比較的日本語を喋れる方がいたように感じたのですが、今回三沢基地には日本語を解する方はいなかったように思いました。この違いは何か意味があるのかと少々不思議に感じました。

2. 航空自衛隊について

- (1) 津曲司令官及び上田3空団司令の講話も興味深く拝聴致しました。特に上田司令の「F-2の部隊建設及び練成にはかなりの時間が掛かる。過去YS-11のような比較的単純なシステムでも3年間掛かった。ましてやF-2のような高度なシステムとなるとなおさらである。」といった趣旨の発言には、弊社も同機の主要構成部品を担当しているだけに身が引き締まる思いであり、今後微力ながら同機の部隊運用に万全を尽くす必要があると痛感致しました。(後略)

三菱電機KK 宮島信一、左藤良典

本研修を通し、駐留米軍をより身近な存在として認識出来るようになりました。空自と米軍が、友好的な関係の基に日本の防衛に従事する姿を目の当たりに出来たことは、日米安全保障体制の実態を正しく理解する上で意義深い研修であったと思います。

米軍の方々の好意的な対応が、深く印象に残りましたが、空自と同様に米軍も地域との友好関係の保持に努めている姿勢を随所に感じ取る事が出来、これまでは、沖縄の駐留米軍の不祥事等を耳にしては悪感情を抱く事もありましたが、認識を改める事ができました。

視察スケジュールは、見学及び講話のバランスが良く申し分のない内容であったと思います。見学は実機等に直に触れる事ができる等、大変刺激的でした。また、米軍のトップ及び現場の方々と食事を共にし、話をする機会を設けていただけたのは、駐留米軍を理解する上で効果的なプログラムであったと思います。(後略)

東京航空計器KK 櫻井雄二

平成13年2月27日と28日の2日間の渡り、三沢基地(米軍及び空自)研修に参加させて頂くことに1月末に決定してから、とにかくこのような研修参加は初めての為、どのような研修になるのか期待感が当日まで徐々に高まりました。(中略)

今回の三沢基地研修において、特に私が感じた事柄を下記に列記致します。

1. 第35 戦闘航空団 研修

三沢基地には以前、個人的に「エアショー」を見学しに行ったことが有るがブリーフィングでの基地概況説明において三沢基地の全面積の約97%を米軍が使用していることを聞いて驚いた。又、基地内の人口が約18000人も居ることに再度驚くと同時に“ここは日本だぞ”と言う怒りにも似た思いも若干込み上げましたが、任務は、“日本の防衛を維持し、太平洋地域の安定を推進する為、即応戦力を展開し高度な任務支援態勢をとることです。”と言われてしまうと仕方ないのかなと思う。

とにかく三沢基地の概要を新たに認識しました。

2. F-16 戦闘機 研修

F-16は各地のエアショーでも見学可能であるが、なかなかコックピット内は見学させてくれないのが一般的である。今回はキャノピー・オープン状態で、レバー大佐のご好意により写真まで撮らせて頂きました。

F-16のH.S.I及びA.D.Iが当社で製造しているF-15用のH.S.Iと比較すると小型(3インチ計器程度)なのと、パイロットのスペースが非常に狭いのに驚きました。

これも今回の研修で新たに認識した事柄です。

3. QUEEN BEE・F-110 エンジンテスト 研修

F-110エンジンのメンテナンスセンターを見学させて頂きましたがメンテナンス期間の短さに感心しました。

ただし、メンテナンスセンターの照明が若干暗くこの様な環境下でのメンテナンスに問題はないのだろうかとの疑問を抱きました。

また、エンジンテストも見学させて頂き、以前MHIにてF-15のエンジンテスト施設は見学したことが有りましたが、実際の燃焼試験(アフターバーナー点火)は初めて見させて頂き良い経験となりました。

エンジンテストのハウスだけでなんと4億円(器材は除く)というのも驚きでした。4億円ということもありエンジンテスト時(アフターバーナー)も操作室にはほとんどエンジン音は聞こえず流石に高価な施設だけのことはあると感心しました。

ご好意によりエンジン設置燃焼室へ耳栓と防音ヘッドを装着して実際にエンジンテスト(アフターバーナー点火)を直接体験して物凄い波動に驚きました。

当社においても体験した人はいないのではないかと思います感動しました。

4. 第3 航空団 研修

F-1の後継機としての支援戦闘機であるF-2の概要を説明して頂き、当社でもOBOGSをはじめとするF-2装備品を10アイテム程、納入させて頂いている関係で機体納入が若干遅れていることを部隊より聞き耳が痛くなる思いでした。とにかくF-2の機体納入が遅延しないように納入装備品についても完璧なものを製造して納入しなければならないことを再認識致しました。

F-2をまじかで見学するのは初めてでしたが、旋回性能の向上の為に主翼及び水平尾翼面積の増大(ベースであるF-16に比較すると大きい)、軽量化の為に複合素材の導入、及び最新鋭電子機器であるアクティブ・アレイ・レーダー等、数々の最新技術を採用したF-2の機能を改めて認識致しました(中略)

【まとめ】

三沢基地2日間の研修に参加させて頂き、今回の研修の目的である日米両軍の任務編成組織及び主要装備品等についての理解を深め、日米両軍各指揮官との懇談を通じて日米安全保障体制の重要性を再認識し、友好親善を図ることが出来たと思う。

私は今回このような研修に初めて参加させて頂きましたが今後、機会があれば我が検査課の部下にも一度体験させたいと思います。最後になりますが、今回の研修会を計画・立案・実行及び随行して頂きました常任理事の皆様と研修時の説明及びサポートして頂きました米空軍・空自の皆様へ感謝致します。

尚、次回の研修内容を検討される時には、出来ましたら体験搭乗・フライト状況見学等についても考慮して頂けると更に良いのではないかと思います。

マサコ・サールス女史が退職、離日 長年に亘り歴代司令官を補佐・絶大の信頼 防衛庁長官から感謝状／JAAGAも記念品

米空軍横田基地の5空軍司令官の専属アドバイザーとして長年に亘り歴代司令官を補佐してきたマサコ・サールス女史（マギーさん）が、去る1月13日付で退職されました。我々も航空自衛隊に在職中、米軍関連の仕事は何かにつけ彼女のお世話になりましたし、JAAGAはその発足の準備段階から今日に至るまで、すべからくマギーさんを通じて事が運ばれてきたと言っても過言ではないでしょう。

昨年暮れ、急遽のご退職の報に接し、JAAGAとしてこれら諸々の感謝の意をお伝えする機会を設けて頂くお願いをしたのですが、マギーさんのご多忙な日程に空きはなく、やむなくJAAGAの横田基地研修（11月27日実施）に際し、ヘスター司令官が催された司令官官邸での懇親会の席を拝借して、列席の石川副会長以下のJAAGAメンバーで、その意をお伝えし、記念品（クリスタルのボウル）をお渡ししました。

その際マギーさんから、JAAGAの皆さんとの仕事は楽しくやり甲斐があり、今回の皆さんの気持ちに大変感謝する旨、また、退官後は米国のラスベガスに住む予定で、向こうで皆さんとお会いし、JAAGAのお手伝いができることを楽しみにしており、機会を捉えて是非お立ちより頂きたいとお話がありました。

マギーさんは退職日に先立ち、12月11日には離日し、ラスベガスに向かわれ、当地で予定どおりご退職日を迎えられ、現在、お元気にラスベガスでの新しい生活を楽しんでおられます。

なお、マギーさんが日米関係に寄与された功績は多大であり、これを称えて防衛庁長官から感謝状が贈られました。

ここに改めてマギーさんの偉大さに敬意を表し、親身にお世話頂いた数々のご恩に感謝するとともに、今後の益々のご健勝とご多幸を祈念したいと思います。

マギーさんから林理事あてに届いたe-mailをご紹介します。新しい連絡先やメールアドレスも書かれています。マギーさんもJAAGAの皆さんとの再会を楽しみにされています。

Please accept this belated thanks for the beautiful gift during the JAAGA event last week. It was absolutely gorgeous !

Here is my new address in Las Vegas. I will be delighted if you, your family, or members of JAAGA could visit with me.

Maggie Surls
5040 Forest Oaks Drive
Las Vegas, NEV 89129

Tel;702-839-1533
FAX;702-839-1503
E-mail;surls2@msn.com



Farewell to Maggie-san

JANAF A定例レセプション

石塚会長が出席、乾杯の音頭

11月22日横須賀プリンスホテルで、日米ネービー友好協会（JANAF A）の定例レセプションが賑やかに開催され、JAAGAからは石塚会長が出席した。

総勢300名にも及ぶ会合の冒頭で、JANAF Aの岡部会長は、日米海軍の相互信頼感の高さを称え、来年10周年を迎えようとするJANAF Aは、さらに活発な活動を目指す、その決意を披瀝した。



Annual Reception, JANAF A

その後、海幕副長が海幕長のメッセージを英語で代読し、在日米海軍司令官のスピーチがあり、鏡割りが行われた。

石塚会長は、次の言葉を贈って乾杯の音頭をとった。

To tell the truth, I'm deeply concerned about the relationship between Japan and the United States from now on, as suggested by the INSS Special Report issued last October.

Because of this, in the 21st Century, the JANAF A and the JAAGA have to try harder to achieve each objectives.

So today, I Would like to propose my toast to the excellent partnership between two great Navies, theat must be a very base of good relationship between two great countries. "KANPAI!"

ピーターズ米空軍長官 横田基地立ち寄り

石塚JAAGA会長と力強い握手

11月21日ピーターズ米空軍長官が、アジア諸国訪問の途上、横田基地に立ち寄られ、在日米軍司令官ヘスター中将官舎で歓迎夕食会が行われた。

氏は海軍の軍歴を有する法律家で、約10年間国防省関係の業務に携わった後、空軍副長官を経て1999年に長官に就任された。

ヘスター中將からJAAGAの紹介を受けた長官は大きく肯き、石塚会長と力強い握手を交わしていた。



Hon. Peters, Secretary of the USAF

投稿広場

ハーテンさんへお見舞い状を！

波澤二郎

ハーテンバーガー元米空軍大佐が病床にあるとのこと。是非、多くの方々からお見舞いの手紙を出して頂きたく筆を執りました。

ハーテンバーガー空軍大尉（当時）と航空自衛隊との結びつきは、彼が朝鮮戦争の任務を終え、発足間もない航空自衛隊の操縦教官として松島基地に着任した時から始まりました。以後、浜松、防府、小月各基地で操縦及び英語教育顧問、T-34からT-6へのスムーズな機種転換を図るためのオリエンテーション指導等を長期にわたり熱心に勤められました。私共は、限りない親愛の想いを込めて、彼をハーテンさんと呼んでまいりました。

その後、本国勤務からベトナム戦争に参戦し、不幸にも背中に重傷を負いましたが、不屈の精神で快復されました。そして、日本への再度の勤務を熱望され、MAAG-J顧問として来日、航空幕僚監部等との連携に当たられました。

米空軍退役後はゼネラルエレクトリック社日本担当顧問として活躍される一方、歴代航空幕僚長や幹部の訪米に際し、また防衛駐在官、連絡幹部、留学生等への支援を惜しみなく続けて来られました。真に米空軍軍人としての全てを航空自衛隊と共に過ごして来られたと申し上げても過言ではないと思います。

私は、当時浜松基地で勤務していた折に知己を得て、以来絶え間なく家族ぐるみの交流と文通を続けてまいりました。ところが今回、筆跡の異なるクリスマスカードを頂き、メアリー夫人の代筆で「エディーはパーキンソン氏病となりましたが、医師の治療のもと小康状態にある」とのことを知りました。ハーテンさんが航空自衛隊の発展に尽くされた功績を思うと、私は、このことを私一存に留め置くことなく、ハーテンさんを知る多くの方々にお知らせし、一人でも多くの方々からお見舞いのお手紙を差し上げて頂きたいものと考え、御紙面に掲載して頂くことになりました。

お見舞い状は日本語でも英文でも結構です。日本語の場合は、私が誠心誠意翻訳文を付加させていただきます。当時のハーテンさんとの関係、経緯、思い出等を是非書き添えて下さい。直接次の宛先に出されても、私の住所宛でもよろしいです。何卒、よろしくお願い申し上げます。

• Edmunnd K. or Mary Hartenberger

1760 Meadow Hill Drive

Annapolis, MD 21401

U. S. A

• 〒359-1132 埼玉県所沢市松ヶ丘2丁目11番地6

波澤二郎

（電話；042-939-9669）

講演等の要望を募ります

「安全保障に関する日米関係」等

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解の

ため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備しています。ご要望あれば御一報下さい。 J A A G A事務局

… 新入会員の紹介 …

1 新入会員の紹介

(1) 正 会 員

(五十音順敬称略)

| 氏 名 | 〒 | 住 所 | 勤 務 先 |
|---------|----------|-----------------|--------------|
| 山 崎 章 | 359-1145 | 所沢市山口116-9 | 京セラミタジャパン(株) |
| 平 岩 善 政 | 358-0023 | 入間市豊岡1-1-1-1610 | 東京航空計器(株) |

(2) 個人賛助会員

| 氏 名 | 〒 | 住 所 | 勤 務 先 |
|---------|----------|-----------------|-----------|
| 鈴 木 加代子 | 432-8002 | 浜松市富塚町682-24 | 浜松ヤナセ(株) |
| 岡 本 時 子 | 432-8023 | 浜松市鳴江3-44-34 | |
| 高 柳 實 | 320-0043 | 宇都宮市小幡2-6-6 | 東野タクシー(株) |
| 工 藤 健 | 108-0023 | 港区芝浦3-4-2 1201号 | 成城木下病院 |

2 名簿修正等

(1) 名簿修正；

ア 正会員勤務先欄変更

- No.7 葦津氏；新会社 富士重工業(株) 〒160-8316 新宿区西新宿1-7-2
Tel 03-3347-2504 Fax 03-3347-2588
- No.9 荒谷氏；新会社 KK.テスコ 〒101-0004 千代田区神田須田町2-25 CTNビル5F
Tel 03-5256-5791 Fax 03-5256-5797
- No.63 尾坪氏；住所変更 〒102-0072 千代田区飯田橋3-8-7 辰巳ビル
Tel 03-5231-5431 Fax 03-5213-5433
- No.139 銭本氏；新会社 (有)さくら興業 〒169-0074 新宿区北新宿1-1-16 JSビル1101
Tel 03-5330-7452 Fax 03-5330-8344
- No.147 高橋氏；社名変更等 GEエジソン生命保険(株) 〒150-8674 渋谷区道玄坂1-21-1
Tel 03-5457-8294 Fax 03-5457-8294
- No.172 中島氏；新会社 JS日本相互住生活(株) 〒132-0034 江戸川区小松川1-5-10
Tel 03-5609-5760 Fax 03-3636-3610
- No.190 野本氏；新会社 (株)IHIエアロスペース
〒100-8182 千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル7階
Tel 03-214-5915 Fax 03-3244-5918
- No.228 村田氏；勤務先欄削除
- No.252 横江氏；新会社 サミットコーポレーション(株) 〒151-0073 渋谷区笹塚1-37-11
Tel 03-3435-6221 Fax 03-3435-6010

イ 法人賛助会員代表者変更

- No.37 横浜ゴム(株) 新代表 永島和雄様

(2) 補遺版訂正；

ア 正会員の部；

- No.268 中司氏 会社電話番号 03-5610-4935
- No.269 新谷氏の項誤記のため削除

イ 法人会員の部；No.26 富士重工業(株)住所 新宿区新宿1-7-2

会 員 募 集

J A A G A は 2001 年 には 発 足 5 周 年 を 迎 え ます。会 設 立 の 趣 旨 の 具 現 化 を 目 指 し て 大 い に 活 動 を 活 発 化 す べ き 時 と 考 え て お り ます。

会 員 相 互 手 を 携 え て、新 世 紀 の 幕 明 け に 更 な る 前 進 を 図 る た め、個 人 会 員 の 会 勢 拡 大 に 努 め て お り ます。会 員 の 皆 様 の 勧 誘、推 薦、情 報 提 供 に 関 す る 御 協 力、御 支 援 を 是 非 と も 宜 し く お 願 い 致 し ます。

な お、個 人 会 員 に つ き ま し て は 次 の 通 り で す。推 薦 若 し く は 情 報 提 供 を 頂 い た 方 に は 直 接 会 員 担 当 の 係 か ら 連 絡 さ せ て 戴 き ます。

【入会資格】

正 会 員 : 航 空 自 衛 隊 O B

個 人 賛 助 会 員 : 航 空 自 衛 隊 O B 以 外 の 方 で、正 会 員 3 名 の 推 薦 が 必 要 で す。

【連絡先】

「郵便」 〒105-0004 東京都港区新橋 5-25-1-3

日米エアフォース友好協会 会員担当行

「FAX」 03-5323-5555 村木裕世(横河電機(株))

「電話」 03-5323-5135 同上

03-3219-5638 細 稔(株島津製作所)

042-333-1229 壺岐紘記(日本電気(株))

03-3489-1120 尾崎利夫(東京航空計器(株)) () 内は勤務先

ワンポイントQ&A

Q JAAGAとは?

A JAAGAは、航空自衛隊と米空軍との相互理解と友好親善の増進に資することを目的とし、現役の皆さんが仕事をやりやすい環境作りに寄与しようという航空自衛隊OB主体の組織です。

Q 協会の運営は?

A JAAGAは、ボランティアに徹し見返りを求めないこと、及び努めて現役の皆さんに負担を掛けないことを方針として運営しております。多くの皆様の期待に応えるべく、さまざまなアイデアを取り入れ、活動の幅を広げ、種々の事業を展開してまいります。

Q 私も参加できますか?

A JAAGAは、その活動をより活発にするため、個人会員の会勢拡充に努めております。航空自衛隊のOBの方は、どなたも正会員として入会できます。また航空自衛隊OB以外の方でも、個人賛助会員として入会の道があります。